

平成30年度 第1回 青森市廃棄物減量等推進審議会 会議概要

(通称：住みよいクリーンな青森市を考える審議会)

日 時：平成30年11月22日(木) 午後1時25分～午後2時45分

場 所：アウガ 6階 会議室

出席委員：加川委員(会長)、西田委員(副会長)、一戸委員、伊藤委員、今井委員、
上村委員(6名)

欠席委員：竹中委員、松山委員(2名)

事務局：環境部 八戸部長

廃棄物対策課 竹内課長

清掃管理課 若佐谷課長、泉副参事、蠣崎主幹、鎌田主査、成田主事

青森市清掃工場 千葉場長

浪岡事務所市民課 船水主幹(9名)

会議次第

1. 委嘱状交付式

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 市長あいさつ

2. 組織会

- (1) 委員・事務局の紹介
- (2) 組織会

3. 案 件

- (1) 青森市清掃事業の概要について
- (2) 青森市災害廃棄物処理計画(骨子案)について

4. その他

5. 閉 会

【会議要旨】

- ・ 案件（１）青森市清掃事業の概要について
- ・ 案件（２）青森市災害廃棄物処理計画（骨子案）について
事務局から案件（１）、（２）について説明

（上村委員）

・ 災害廃棄物処理計画について、青森市では年度内の策定を予定しており、スピード感を持って進めていることから、良いことだと思う。

また、全国各地で災害が多発している状況の中で、青森市内でもいつどうなるか分からない。

そこで、最初に確認しておきたいことは、今後の計画の策定までの流れや、審議会委員の役割について教えてほしい。

（事務局）

・ 審議会については、２、３回開催を予定しており、本日、委員の皆様へ配付した計画の骨子案を基に今後、計画の素案、更には計画案について、委員の皆様の意見を取り入れながら、計画の精度を上げていきたいと考えている。

（上村委員）

・ 諮問答申という形ではなく、意見を取り入れて、計画を策定するというだけでよいか。

（事務局）

・ 諮問答申という形ではなく、委員の皆様の意見を取り入れながら、計画策定の承認を得たいと考えている。

（伊藤委員）

・ 想定する災害が発生した場合、発生した災害廃棄物の処理に要する日数を教えてほしい。

（事務局）

・ 現在、骨子案を作成したところであり、計画の素案を作成する段階で、災害廃棄物の発生量、処理量等について、青森県災害廃棄物処理計画の数値を参考にしながら、計画を作成していきたい。

（西田委員）

・ ごみの減量化については、分別の徹底、塵芥車へのラッピングによる周知、エコクッキングの開催等、これまで様々な取組を実施し、広報あおもりや市のホームページに掲

載しているが、環境意識の高い人には情報が伝わりやすいが、環境意識の低い人への情報の伝達については、SNS の活用により、例えば環境意識の高い人と低い人のつながりを作ることが、ごみ問題に対する意識啓発やごみの減量化につながる重要な部分であり、市のフェイスブックを活用した啓発が重要になってくる。

(事務局)

- ・ SNS の活用については、参考にしたい。

(伊藤委員)

- ・ 現在、市では ISO 認証を取得しているのか教えてほしい。

(事務局)

- ・ 現在、市では ISO 認証を取得していないが、それに準じた取組を行っている。

(伊藤委員)

- ・ 市と青森市ごみ問題対策市民会議の位置付けについて教えてほしい。

(事務局)

・ 家庭ごみの減量化を進めるためには、町会等で構成された青森市ごみ問題対策市民会議と連携し、各種取組を実施して行くことが効果的であり、平成 26 年度から市が負担金を投入し、様々な取組を実施した結果、着実にごみの減量化が進んでいる。

(加川会長)

・ ごみの減量化の取組については、市から全市民に伝達するのは限界があるので、各町会単位で各々の会員に呼びかけた方が効果が得られることから、今後も行政との連携を密にしていくことが重要であると考えている。

(上村委員)

・ 質問ではないが、市民への呼びかけの受皿として青森市ごみ問題対策市民会議という身近な所での啓発の体制があると感じた。県としても 3R（スリーアール）の普及啓発の取組の一つとして、今年 1 2 月開催の環境フェアにおいて市と連携してイベントを実施することとなっているので、今後とも色々な場面で連携していきたい。

(事務局)

- ・ 市としても連携を密にしていきたいと考えている。

(加川会長)

・ 自主防災組織が全町会にあれば良いが、現状としては、全体の約半分を少し超えた位であり、広域的な組織体制が良いのか、単独が良いのか、あるいは中学校単位が良いのか

か、小学校単位が良いのか、町会連合会で議論している。

青森市ではこれまで大規模な災害がなかったので、具体的な対応策の作成は難しい部分もあるが、できるだけ早めに災害廃棄物処理計画を取りまとめてもらいたい。

(伊藤委員)

・浪岡地区のごみを青森市清掃工場で受け入れることについて、目途が立っているのか。

(事務局)

・着実にごみの減量化が進んでいるものの、まだ目途が立っていない状況であり、今後ともごみの減量化を進めて行く必要があるものと考えている。

(一戸委員)

・当初、青森市清掃工場については、現在の規模より大きな施設を建設する予定であったが、その後、施設の規模が縮小となったことの経緯について教えてほしい。

(事務局)

・細かい経緯については、本日、資料を用意していないが、当初の計画では現在の施設よりも大きな施設規模で計画していたが、計画を見直した際に、ごみの減量化を進めることで施設規模を縮小できるものと見込んだ上で、現在の施設規模になっている。

(一戸委員)

・東日本大震災の時、悲惨な状況下でありながら、産業廃棄物の収集運搬の許可がなければ瓦れきを運ぶことができない。

また、運搬に要する燃料の供給をどうするのか、などの問題が生じた。

このことから、災害に備えて今のうちに取り決めておくことが重要である。

実際に現地を視察したが、道路の瓦れきを片付けるのが最優先だと感じた。

(事務局)

・貴重な意見として、災害廃棄物処理計画作成の参考にしたい。

(伊藤委員)

・最後の質問だが、一般廃棄物の処理フローについて、個人的な勉強を兼ねて教えてほしい。

(事務局)

・本日配付の清掃事業概要に記載があるので、審議会終了後、個別に説明したい。

以上